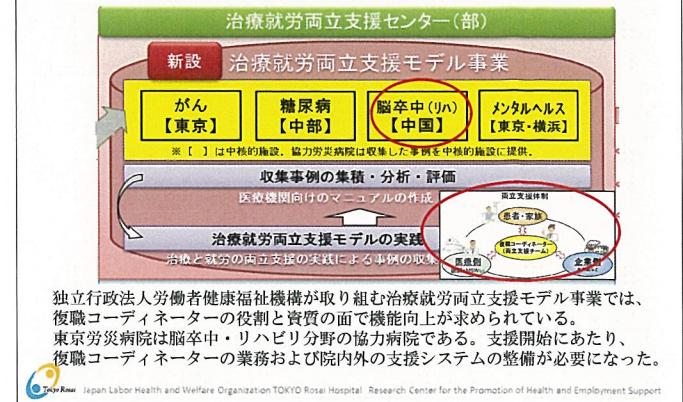




治療就労両立支援モデル事業（脳卒中・リハビリ分野） 東京労災病院の取組から見えた 両立支援に必要な連携

東京労災病院治療就労両立支援センター
○作業療法士 佐藤さとみ
両立支援部長 小山文彦
両立支援第二部長 門山 茂
中国労災病院治療就労両立支援センター
両立支援部長 豊田章宏

背景



背景

脳卒中後中途障害者の復職に必要なもの

- 患者を中心とした地域医療連携の強化
および職場さらには行政を含めた連携づくり
- 急性期から関わる脳卒中後の復職コーディネート

豊田章宏、他：脳卒中（リハ）分野における治療と就労の両立支援
第62回職業・災害医学会学術大会.2014.

以上を踏まえ、
当院で脳卒中・リハビリ分野の治療と就労の両立支援を展開する上で
必要な連携について検討した。

対象・方法

- 期間：平成27年4月1日から同年6月30日
- 対象：脳卒中発症時に就労しており、
急性期から職場復帰の希望があり、
両立支援事業に同意を得た者
- 方法：各対象者の支援内容を記録
後方視的検討

Tokyo Rosai Japan Labor Health and Welfare Organization TOKYO Rosai Hospital Research Center for the Promotion of Health and Employment Support

結果 対象者基本情報

対象者：8名（男6名・女2名）

平均年齢 47.8±12.5歳※抄録訂正

（20代1名、30代1名、40代3名、50代1名、60代1名）

疾患内訳 脳梗塞2名、脳出血4名、くも膜下出血2名

病前職業

産業分類	職業分類	雇用状況
医療・福祉	運搬・清掃・包装業従事者	正社員 6
情報通信業	専門的・技術的職業従事者	パートタイム労働者 1
運輸・郵便業	輸送・機械運転従事者	無職 1
地域電気通信業	サービス職業従事者	無職 1
	事務従事者	無職 1

結果 復職コーディネート時期別状況



両立支援事業での支援の流れ
○急性期→回復期→生活期→復職期の各段階に応じて、各関係者より情報収集。
○治療経過・回復経過から、復職のタイミング、利用する社会制度・支援機関の検討などについて情報提供。

Tokyo Rosai Japan Labor Health and Welfare Organization TOKYO Rosai Hospital Research Center for the Promotion of Health and Employment Support

結果

対象者8名の支援記録を後方視的検討

両立支援実践において必要な5つの連携

- 脳卒中・リハビリ分野の両立支援で連携する人々の確認
- 対象者をリストアップするための院内連携
- 対象者の転退院後も支援を継続するための他施設連携
- 生活・復職のキーパーソンとの連携
- 後遺症により社会的支援を要する際の連携

考察

治療就労両立支援に必要な連携



- 治療・生活・仕事の視点で、
それぞれのキーパーソンと連携を図る必要がある。
- 患者を中心とした院内外の医療、家族、会社、行政との連携は、急性期から復職を目指す両立支援に不可欠である。
- 復職コーディネートは、これら連携の関係者同士をつなぎ
復職の意思をつなぐことと考える。

Tokyo Rosai Japan Labor Health and Welfare Organization TOKYO Rosai Hospital Research Center for the Promotion of Health and Employment Support